

2011年3月期 第2四半期決算説明会



2010年11月29日



株式会社アドバネクス

本資料は2010年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

主な内容

1. 2011年3月期第2四半期決算の概要
2. 2011年3月期通期見通し
3. 今後の事業展開

1. 2011年3月期第2四半期決算の概要

1-1 第2四半期連結業績概要

(単位:百万円、%)

	2010年3月期	2011年3月期	対前期比増減	
	2Q	2Q	額	率
売上高	14,247	16,159	1,912	13.4%
営業利益	368	393	761	-
利益率	2.6%	2.4%	-	-
経常利益	580	211	791	-
利益率	4.1%	1.3%	-	-
純利益	548	93	641	-
利益率	3.8%	0.6%	-	-

「なるほど！」を提供する

1-2 第2四半期連結業績のポイント

前年同期から収益が回復

売上高は前年同期比13.4%増、売上増加に伴う利益の増加や合理化による固定費削減効果から、収益も大幅に回復。

精密ばね事業が好調

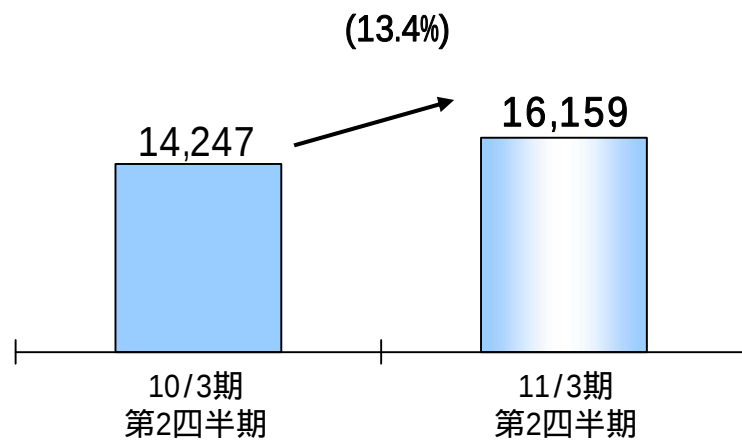
精密ばね事業は、OA機器向けや自動車向けの売上が国内・海外ともに回復し、利益が増加。プラスチック事業とモーター事業も業績改善し、黒字化。

ヒンジ事業は業績悪化、特損が発生

携帯電話向けヒンジユニット販売は、国内・海外とも売上減少。ノートPC向けも立ち上げの遅れから販売低迷が続く。子会社ストロベリーにおいて、合理化策実施に伴い約3.3億円の特別損失が発生。

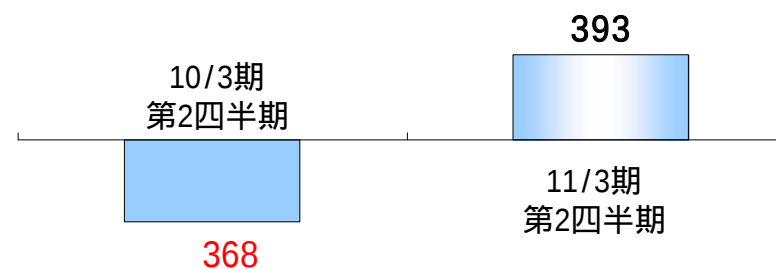
1-3 第2四半期連結業績比較

売上高

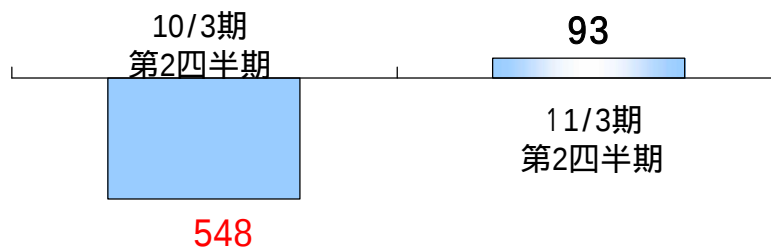


営業利益

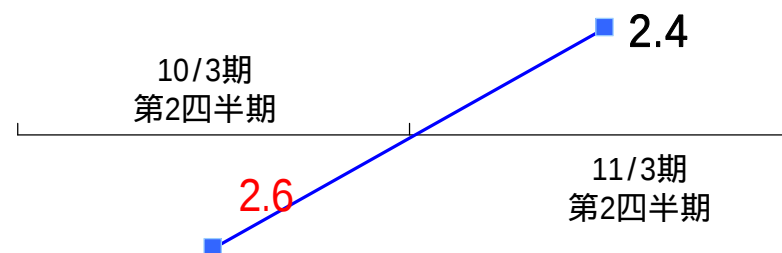
(単位:百万円)



純利益

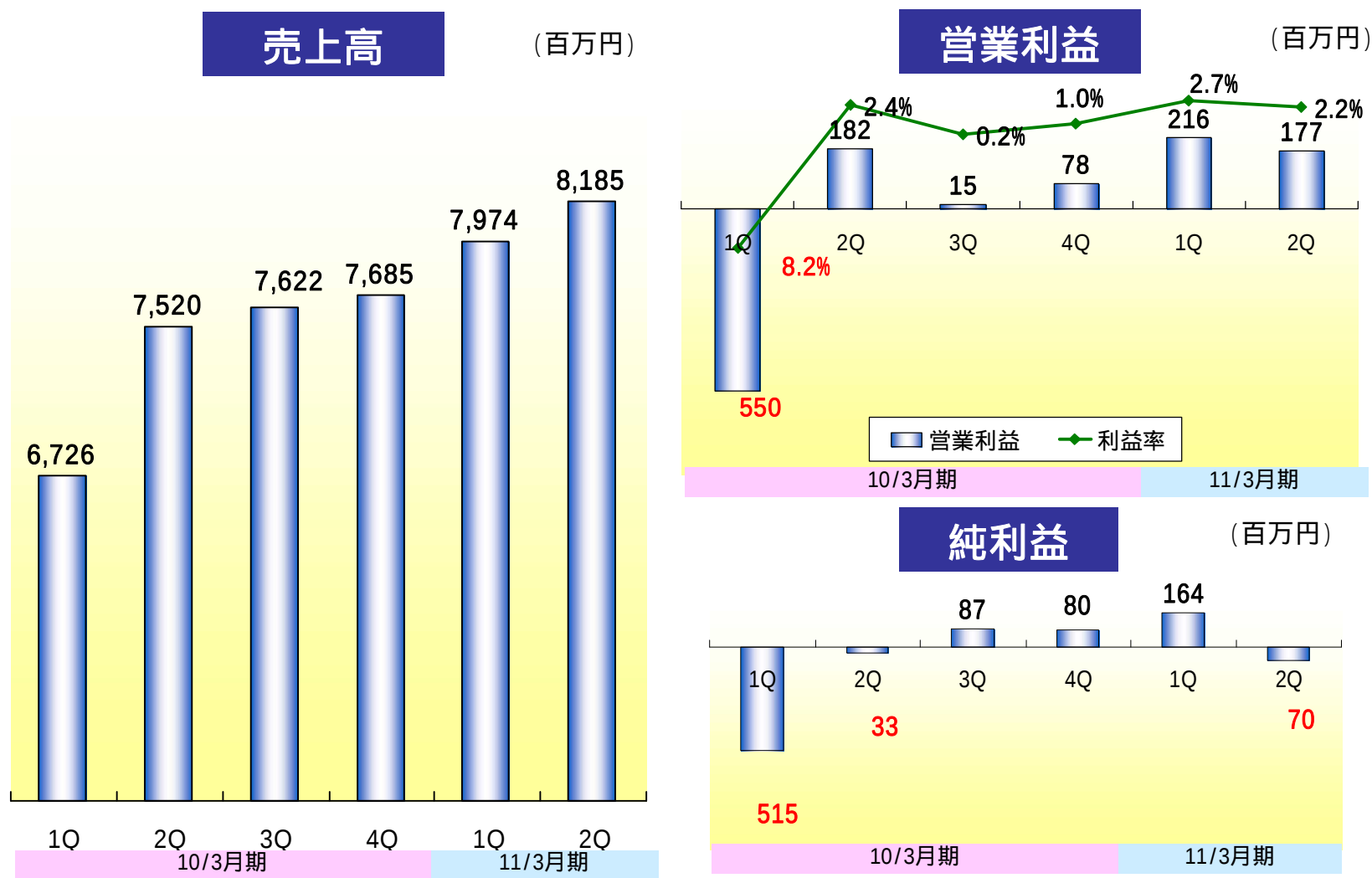


営業利益率%



「なるほど！」を提供する

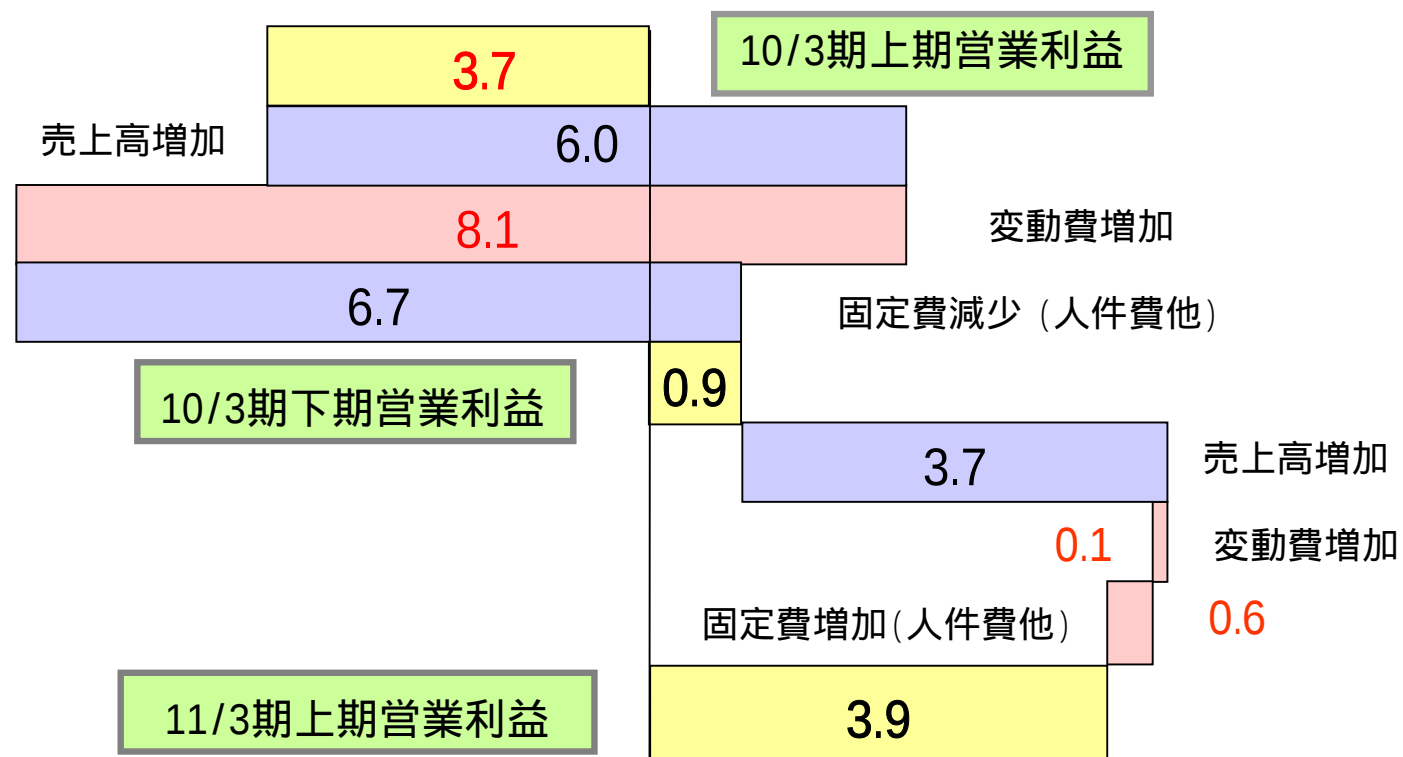
1-4 四半期業績推移



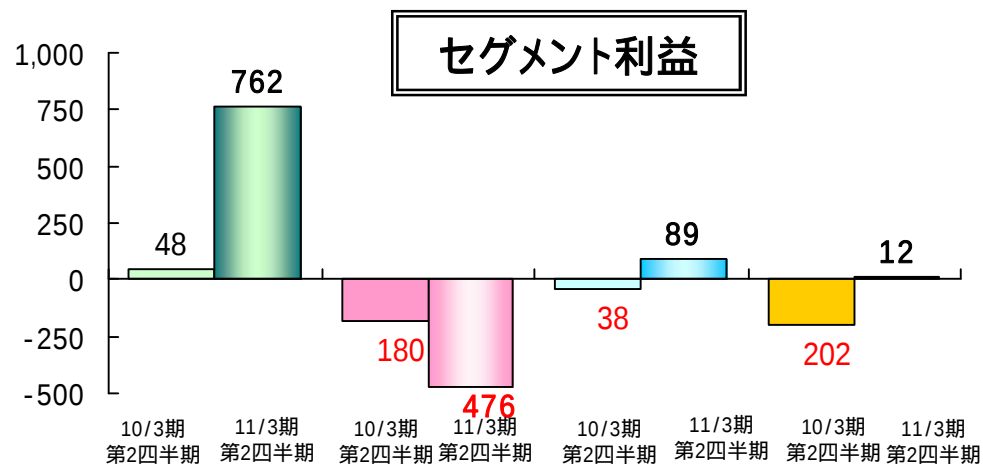
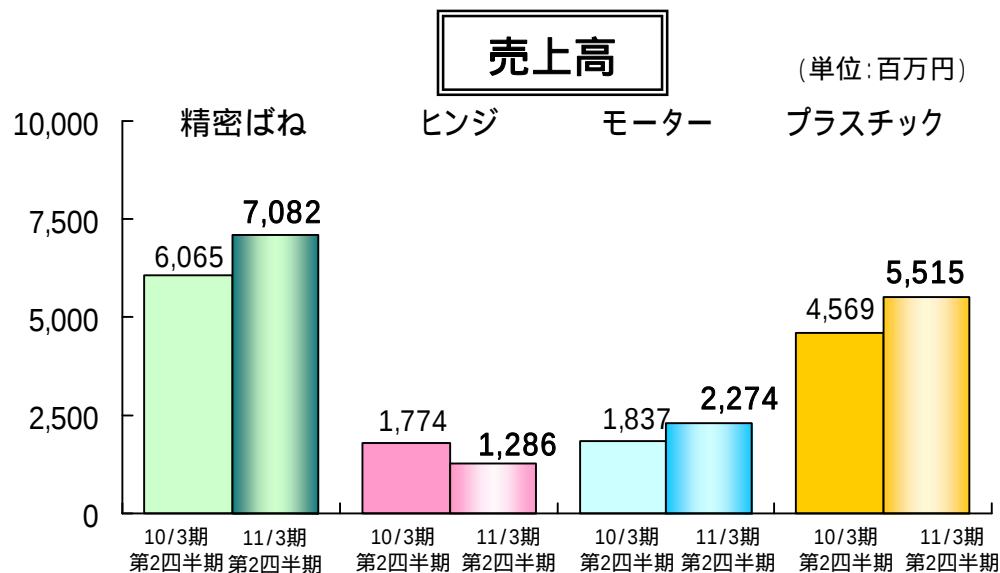
「なるほど！」を提供する

1-5 営業利益増減分析(連結)

(単位:億円)



1-6 事業別売上高・セグメント利益



< 前第2四半期からの変動要因 >

精密ばね

OA機器向け、自動車向けの売上が国内・海外とも伸長。人件費を中心とする固定費削減効果もあり、収益が大幅に増加。

ヒンジ

携帯電話向けが国内、海外ともに売上減少。ノートPC向けも立上げの遅れが響き、販売低迷。損失が拡大。

モーター

住宅関連設備や季節家電向けの売上が好調なことから、収益が改善。

プラスチック

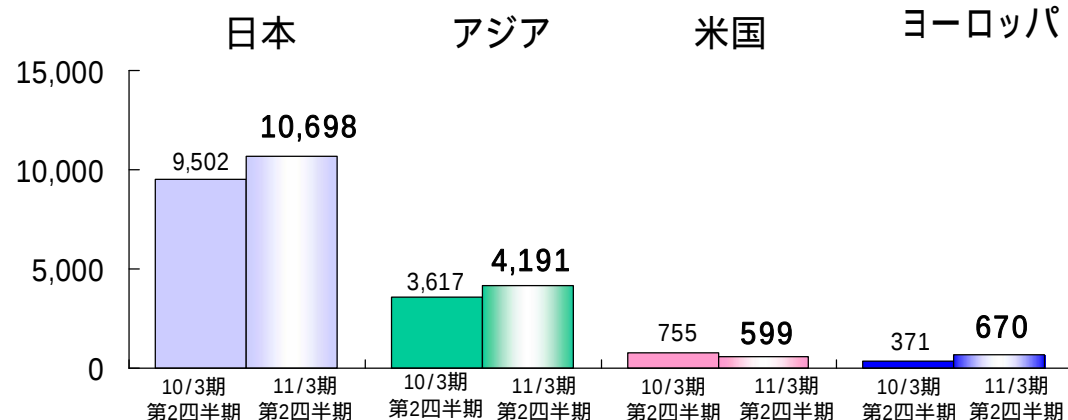
OA機器向け製品の需要回復やギヤインジェクション等の自動車向け製品の販売が伸び、国内・アジアとも売上増加。固定費削減効果もあり、国内の収益は回復。

「なるほど！」を提供する

1-7 所在地別売上高・セグメント利益

売上高

(単位: 百万円)



< 前第2四半期からの変動要因 >

日本

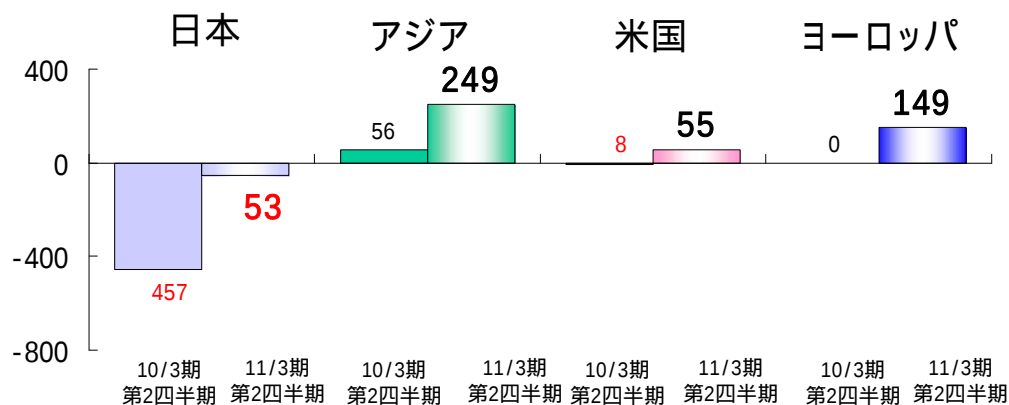
売上 + 12.6%, 営業損失404百万円減少
 ・ヒンジを除く3事業は、売上増加に伴い、いずれも営業黒字化。ストロベリーの損失が利益を相殺したものの、前年同期比では収益が改善。

海外

売上 + 15.1%, 営業利益405百万円増加
 ・アジアは、精密ばねとプラスチック事業でOA機器向けや自動車向けの売上増加により、増収・増益。
 ・米国は販売子会社売却により減収になったものの、黒字転換。英国は医療機器やタンダレスコイルスレッドの売上増加から利益増加。

セグメント利益

(単位: 百万円)



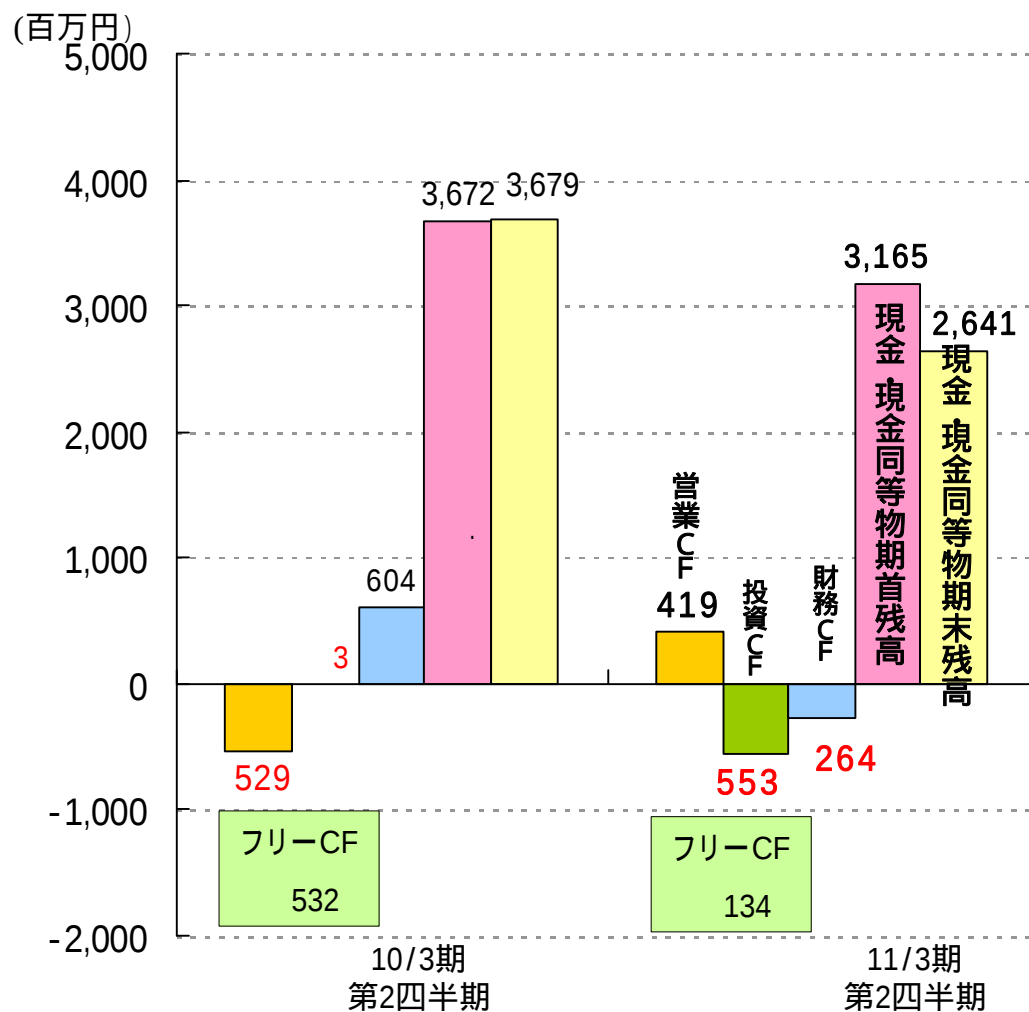
「なるほど！」を提供する

1-8 連結市場別売上高

(百万円)	10年3月期		11年3月期		増減	
	2Q	構成比	2Q	構成比	額	増減率
OA機器	3,983	28.0%	4,780	29.6%	797	20.0%
自動車機器	2,708	19.0%	3,244	20.1%	536	19.8%
携帯情報端末	1,798	12.6%	1,189	7.4%	609	33.9%
AV・家電機器	691	4.9%	688	4.3%	3	0.4%
精密機器	610	4.3%	916	5.7%	306	50.2%
PC・周辺機器	519	3.6%	744	4.6%	225	43.4%
医療機器	424	3.0%	499	3.1%	75	17.7%
その他	3,509	24.6%	4,094	25.3%	585	16.7%
合計	14,247	100%	16,159	100%	1,912	13.4%

「なるほど！」を提供する

1-9 連結キャッシュ・フロー



< 11/3期第2四半期の状況 >

営業活動によるCF

減価償却費による資金留保等により、資金が419百万円増加

投資活動によるCF

国内やアジアの工場における機械設備等の投資により、資金が553百万円減少

財務活動によるCF

銀行からの借入金の返済等により、資金が264百万円減少

「なるほど！」を提供する

2. 2011年3月期通期見通し

2-1 2011年3月期通期業績予想(連結)

(百万円)	2010年3月期	2011年3月期 通期予想	対前期比 増減(額)	期初予想 (5月14日公表)	対期初予想 増減(額)
売上高	29,555	31,000	1,445	31,000	-
営業利益	274	860	1,134	860	-
営業利益率	0.9%	2.8%	-	2.8%	-
経常利益	569	520	1,089	520	-
純利益	380	420	800	420	-

「なるほど！」を提供する

2-2 通期業績予想について

通期予想は期初予想から変更なし

ヒンジ事業の大幅な業績落ち込みを他の3事業でカバー。

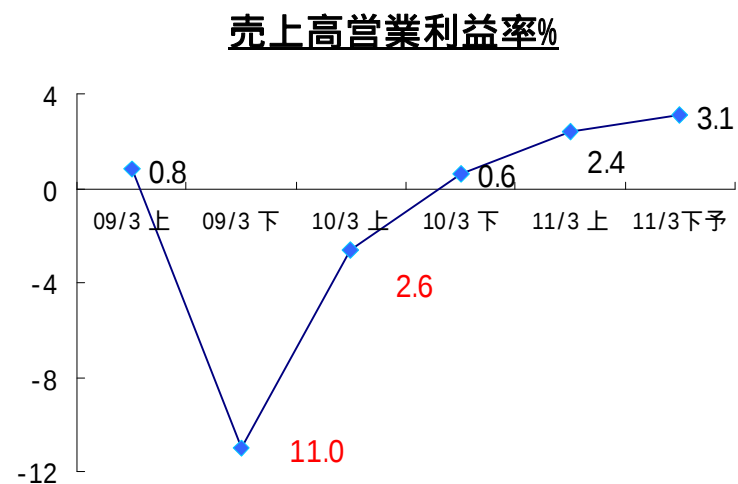
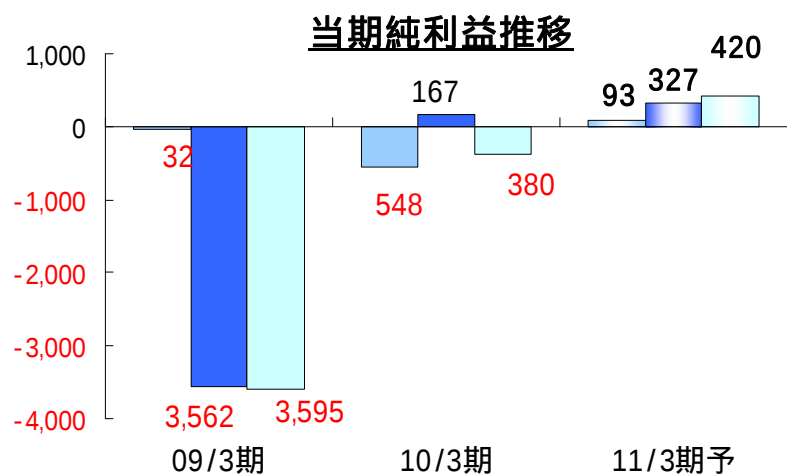
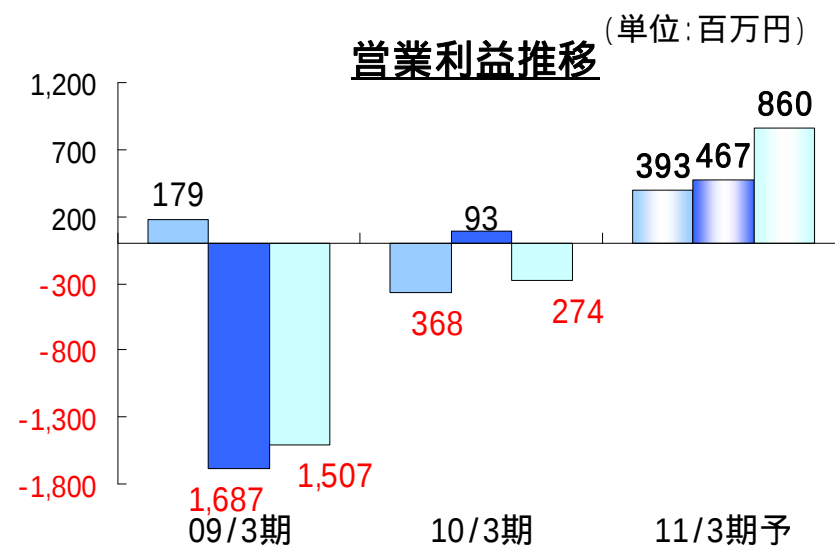
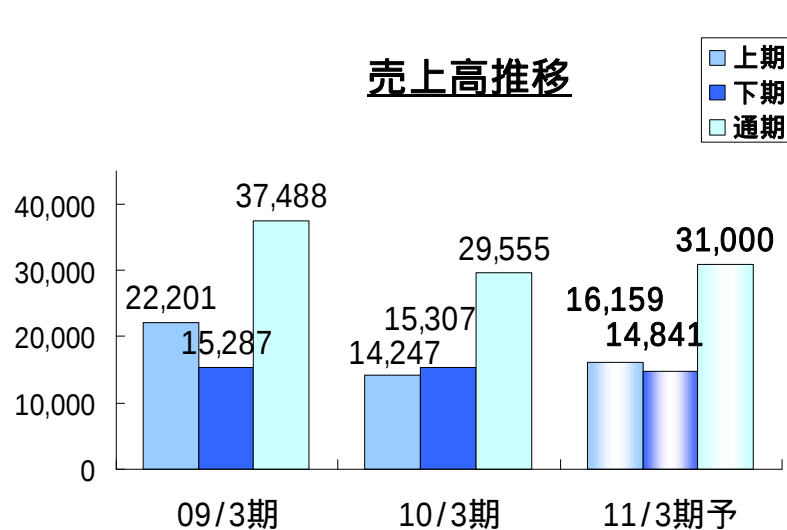
精密ばね事業が下期も好調維持

国内・海外ともOA機器向け、自動車向けの販売が好調。下期・通期とも、収益は当初予想を大幅に上回る見込み。

ヒンジ事業は業績悪化

PC向けの販売低迷と国内携帯電話市場向けの売上減少から、下期も売上高と利益の大幅な減少を予想。合理化策の実行により、第4Qでは損失額が縮小する見込み。

2-3 業績推移(連結)

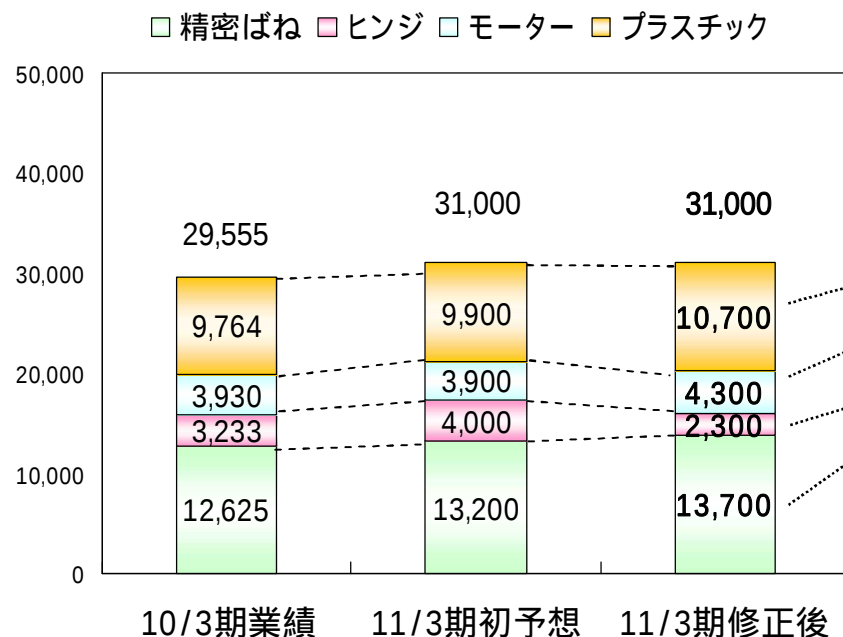


「なるほど！」を提供する

2-4 セグメント予想の修正

売上高

単位: 百万円



セグメント利益

単位: 百万円

	10/3期 業績	11/3期 期初予想	11/3期 修正後	増減額
プラスチック	107	310	60	250
モーター	89	110	200	90
ヒンジ	705	180	830	650
精密ばね	444	620	1,430	810
セグメント利益	274	860	860	0

< 修正の要因 >

精密ばね事業とプラスチック事業でOA機器向けや自動車向けの売上が伸長。ヒンジ事業は携帯向けで10億円、PC向けで6億円売上高が当初予想を下回る見込。

精密ばね事業は、国内・海外ともに利益が伸長。ヒンジとプラスチックが予想を下回る見込。プラスチック事業は、国内のインサート成形と海外がマイナス要因。

「なるほど！」を提供する

3. 今後の事業展開

3-1 精密ばね事業の拡大

1. 海外事業の強化

英国事業の再編・強化

- ・子会社2社合併 → Advanex Europe Ltd. 設立 (10月1日)
- ・経営資源集約により、医療関連とタングレスの事業拡大を推進

アジアにおける事業拡大

- ・顧客企業の生産海外シフトに対応 ~ Made in market ~
- ・タイ・ベトナム強化、次の進出先としてインドを検討
- ・中国の新工場計画は延期、現状拠点(大連・東莞・上海)で生産拡大

2. 戦略商品の受注拡大

国内の売上減少を戦略商品・新規商品の受注拡大によってカバー

高付加価値化による利益率向上

インサートカラー(自動車ほか)
タングレス(通信機器・自動車ほか)
タブレット端末等向けコネクター部品
リチウムイオン電池安全部品
無線アンテナ
ナット緩み止め部品

3-2 ヒンジ事業の立直し

業績悪化の要因

携帯電話向け

- ・国内はタッチパネル型スマートフォンの増加による需要縮小
- ・海外は価格競争の激化による受注減少
- ・品質トラブルによるコスト増加

ノートPC向け

- ・中国新工場(上海)の立上げの遅れ
- ・品質・技術問題の長期化による販売低迷

今期予想売上高

(億円)	当初計画	予想	差異
携帯向け	29	19	10
PC向け	10	4	6
合計	39	23	16

3-2 ヒンジ事業の立直し

ストロベリーコーポレーションの合理化施策

生産体制の再構築

- ・中国広州工場の生産縮小とグループ企業(フジマイクロ広州)への生産委託
- ・アウトソーシング活用による固定費削減と歩留まり改善

在庫廃棄
機械設備の移転・除却
人員合理化

販管費の削減

- ・希望退職の募集(本社・研究所・営業所で合計30名、社員の1/3を12月末に削減)
- ・社員と役員の給与・報酬カット
- ・米国事務所の閉鎖、本社・営業所のスペース縮小等

合理化実施に伴い、特別損失372百万円発生

年間7億円の経費削減効果 → 来期は利益黒字化(売上計画30億円)

「なるほど！」を提供する

3-3 プラスチック事業の収益改善

1. 海外事業の強化

- ・中国・マレーシア・ベトナムの3拠点
- ・売上は自動車向け等で回復したものの、収益性低い
- ・一般成形品需要（OA機器向け）は国内から海外へシフト

課題

品質問題の解消と原価低減による収益改善
売上増加と利益黒字化

2. 国内インサート成形事業の体制強化

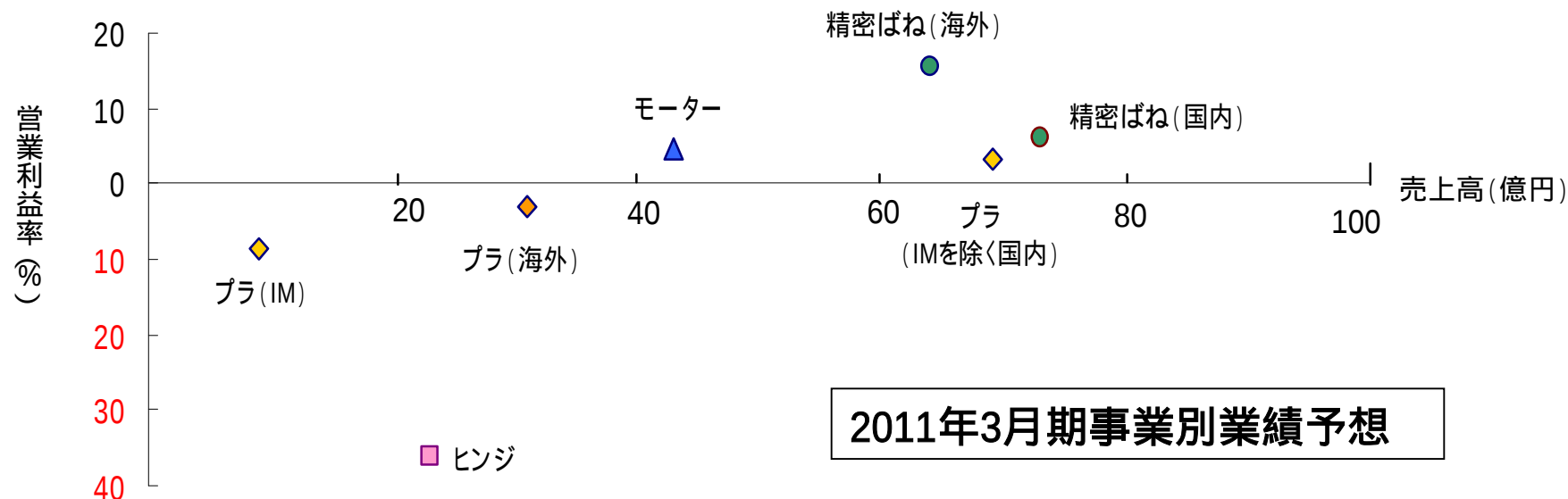
- ・第一化成（栃木）に生産移管（2009年7月）、販売はアドバネクスが担当
- ・最悪期からは回復したものの売上高は低水準
- ・従来市場（OA機器、電子部品等）では新規案件減少、自動車市場や海外での引き合い増加

課題

二社連携強化による売上増加
海外展開の推進

3-4 今後の課題(まとめ)

精密ばね事業	・海外の売上拡大と利益増大 ・商品高付加価値化による国内の利益率向上
プラスチック事業	・海外の売上増加と収益改善 ・インサート成形(IM)の売上増加と収益改善
モーター事業	・商品高付加価値化による利益率向上
ヒンジ事業	・需要減少に対応した事業構造改革



「なるほど！」を提供する



ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
広報 IR部

TEL:03 - 3822 - 5865 FAX:03 - 3822 - 5873

URL: <http://www.advanex.co.jp>